

ARTS for HOPE 活動報告書

2015年7月4日～9日

- ①7月5日／宮城県牡鹿郡女川町 新田応急仮設住宅「Happy Doll Project」の実施
サノフィ株式会社との協働プログラムとして、定期的な訪問を続けている女川町の仮設住宅で「Happy Doll Project」を実施しました。引きこもりになってしまった住民の方が初めて参加してくれた！という支援員さんの喜びいっぱいの報告に、この上ない嬉しさを感じたプログラムとなりました。七夕にちなみ短冊とともに展示したハッピードールには「仮設のみんなが幸せでありますように」というメッセージが。皆さんの願いが天まで届きますように…。



②7月5日／宮城県石巻市 旭化成団地応急仮設住宅
「Happy Doll Project」の実施

町のあちこちで災害公営住宅の建設が進む石巻。ハッピードールを作りながら自然と出てくる会話は、これからの住まいのこと。「来月引っ越す災害公営住宅を見てきたけど、すっごく広かった!」「仮設は狭いからね～」という子どもたち。「もうすぐ離れ離れになっちゃうんだ」という親友同士、残された時間を惜しむかのように、仲良くハッピードールを楽しんでいました。3度応募して3度落選した、という住民の方も。災害公営住宅の建設戸数の不足も懸念されている石巻。仮設住宅の中でさまざまな思いが交錯し、コミュニティにも大きな変化のうねりが訪れていることを感じたプログラムでした。



③7月6日／宮城県石巻市 石巻バイパス応急仮設住宅
「Happy Doll Project」の実施

サノフィ株式会社との協働プログラムとして、定期的な訪問を続けている女川町の仮設住宅。石巻バイパス仮設住宅（西集会所）は今回で3度目の訪問。顔なじみの皆さんと一緒に、90歳の住民の方が初めて遊びに来て下さいました。「皆さんのお蔭で素敵な作品が出来ました」と喜んで下さり、七夕の短冊に書かれた願いごとは「世界の国が良くなりますように」。仮設で生活するご自身ではなく、世界に向けられた眼。その強さにハッとさせられたプログラムでした。



④7月7日～9日／岩手県大船渡市
「Art Renovation Project」の実施

大船渡の碁石海岸にある復興食堂『羅・萌衣瑠～ら・めーる～』さんからアトリノベーションのご依頼をいただき、プレハブ店舗を明るく塗り変えました。

店主の大和田ご夫妻は20年以上営んできた民宿と自宅を震災で失い、仮設住宅で生活しながらも、自宅跡地で再建を図りたいと奮闘されてきました。依頼の内容は「被災のイメージを払拭するような明るい外観にしてほしい」というもの。その思いに応えたい！と3日間に亘るプロジェクトとなりました。



店主の大和田ご夫妻。4年間に亘る仮設住宅での生活を、つい最近終えたばかり



美しい碁石海岸を臨むプレハブ店舗





今回のプロジェクトには、店主ご夫婦とお友達、現地協力者の皆さん、シルバーセンターの皆さん、ボランティアさんなど、たくさんの協力者が集まりました！お仕事の休みの日を合わせて駆けつけて下さった、お世話になっている仮設住宅の自治会長さんや、深夜バスで静岡から来てくれたボランティアさんも



地元の海の幸いっぱいのお昼ごはん、ご馳走様でした！



みんなで力を合わせ、1日目は下地とベース色の塗装が無事終了！



どうしても参加したい！と学校に許可をもらい、休みを取って深夜バスで来てくれた東京の高校生。1日目に参加し、再び深夜バスに乗って帰って行きました。お疲れさまでした！

リノベーション2日目。「道路から見えにくい位置にあるため、お店だと気づいてもらえず素通りされてしまう」という『ら・めーる』。たくさんの人に足を運んでもらいたい、と切り文字看板を制作し、急遽エントランスも追加でリノベーションしました！



美術館の展示造作にもよく使われている切り文字で看板制作





デザインのモチーフは店主たっ
の希望で末崎町名産わかめ。カラ
フルなわかめが壁一面に踊ります



- 深夜バスで駆けつけてくれた常連ボランティアさんもメンバーに加わり、2日目の工程も無事終了！看板は後日取り付け予定です





3日目の補修作業が
 終わり、たくさんの
 人たちの手によって
 『ら・めーる』が新
 しく生まれ変わりました。
 フランス語で“海”を意味する
 店名。磐石海岸の美しい風景と
 ともに長く愛されますように

